

滋賀県立高等学校再編計画(原案)説明会 意見概要 < 高島会場 >

日 時 平成23年(2011年)8月13日(土) 15:00~17:00
場 所 高島地域地場産業振興センター 視聴覚室(参加者17名:発言8名)
主 意 見 同趣旨のご意見については集約してとりまとめました。

県は選択肢を増やす必要があるというが、事実上通学できなければ選択肢にならない。
全県一学区制度は選択肢を増やすと言うが、できる子、お金のある子にとっての選択肢である。そうではない子には、ものすごく冷たい。

誰にとっての魅力と活力なのか。どのように子どもを教育するのかを言っていない。合理化としか思えない。

魅力と活力は生徒が作り出すもの。指導する側から生まれてくるものなのか。大人が決めて子どもに押しつけるのでは教育が成り立たない。多様な学校を選択肢を作っただけで、その後の生徒の人生の活路を導けると思うのか。

生徒は多様な問題を抱えており、切磋琢磨できる状態ではなく、切磋琢磨という言葉は合わない。定員を減じて少人数にし、きめ細かな教育をすることが最も大切。

少人数学級は他府県では既にやっている。滋賀県もできないはずはない。

少人数学級を考えないのか。1学級35人、30人にすれば良い教育ができる。

学級数や定員について、生徒と接している現場の教職員がどう思っているか話を聞いたことはあるのか。

再編計画は財政的な理由が大きな動機ではないのか。

お金の使い方だけの問題。どこを削ってどこに入れるのか、基本線をしっかり持って欲しい。それが生徒や保護者に向けての大事な観点。

長浜北星高校定時制の生徒はいろんな課題を抱えているため、能登川の総合単位制高校へは通学できない。

総合単位制高校は、他府県の例を見ても、大変多くの課題を抱えた学校になることは明らかである。

石部では総合選択制をやめておきながら、総合単位制高校では選択制を取り入れている。

長浜北高校の教員、生徒が長浜高校に移動しないのに、どうやって伝統を引き継ぐことができるのか。

平成26年に湖北で生徒が100人増加する。そんな時期に長浜北高校を統合し、湖北の他の学校の学級数を増加するというが、施設面を考えると不可能ではないか。湖北で学級数を増やさなければならぬときに、なぜ学校を潰すのか。

長浜北高校の統合は、校舎が古いから廃校にするようにとれるが良識的でない。

湖北の全ての世論は、統廃合を白紙に戻して欲しいというのが願いだ。

教育長は、長浜北高校 100 周年記念式典の祝辞で長浜北高校の今後の充実発展を願っておられたが、それは偽りか。

地域との共生と言いながら、信楽高校は切っているように感じる。

職業学科は何年もかけて変化させてきたはず。その教訓と反省はできているのか。これも合理化だと思う。

長浜北星高校に「まちづくり系列」を設置するのは、どこからの発想なのか。

分教室の教育は、本校での教育と同質であることを保障されなければならない。

特別支援学校の大規模化の対応策になっていない。

特別支援教育に対する展望を示して欲しいと言ってきたが、なぜ後手に回るのか。同じ教育委員会の中で障害児だけが後回しにされているのではと危惧している。

中高一貫教育校は、地元のリーダー的要素を持った生徒が県立中学に行ってしまう影響から新設を中止したのだろう。そうだとしたら、現在の中高一貫教育校も直ぐに中止を。

現場の教職員、生徒、県民の声を聴いてほしい。しっかり聴いて検討して欲しい。

今からでも遅くないので、再検討できるところは再検討して欲しい。なぜ急ぐ必要があるのか分からない。もう一度抜本的な検討をして欲しい。

生徒の減少率でみると、湖西が最も生徒が減少する。高島高校または安曇川高校を将来的になくすのか。

強い人の理論に基づいた再編計画である。弱者の立場に立つべき。

意見交換の意見をホームページに出す場合は、発言者の意図に忠実にして欲しい。